

読売 俳壇

矢島 渚男 選

エニンダや昭和に明日の夢ありし

富山市 藤島 光一

【評】昭和後期に青壮年期を送った方だろう。貧しく苦しい日々の記憶は消えて、あの時代には明日への夢があったという。こんんには何事に数字ばかり。

実家売れ梔子の花助手席に

山形県 沼沢さとみ

【評】地方の農家だったのだろうか。移住が風潮にもなって漸く買う人が現れて処分した。実家のクチナシの花を乗せて都市の家へ帰る。来客をじっと見つめる金魚かな

六栗市 宗平 圭司

【評】単純さに優れる。アパートの一室かな。主人も金魚も退屈しているところへ客が来た。金魚もうれしそうに客の方を見ている。夏帽子ひとつだけ乗せ終電車

宝塚市 武田 優子

里山のポストに二羽の巣立鳥

いわき市 佐川 義成

打水や窪みの苔を潤して

長岡京市 みつきみすず

日和山佐渡を隠せし梅雨の雲

横須賀市 大塚遊球子

分校の部活緋メダカ飼育かな

泉佐野市 布野 寿

先生も混ざり水泳大会す

土浦市 今泉 準一

挿鉢の街半分は五月闇

鎌ヶ谷市 藤本 嗣子

宇多喜代子 選

扇子措く話いよいよ難しく

相模原市 石田わたる

【評】時折。パタパタと扇子の手を動かしながら厄介な話をしている。ところが厄介がますます高じてくると扇子どころではなくなる。実梅採る高枝鉢花鉢

越谷市 小林ゆきお

【評】使う鉢の種類をリズムカールに「高枝鉢・花鉢」としただけで、梅の実のなっている様子までが伝わってくる。ユニークな生徒会長新学期

総社市 風早 貞夫

【評】新学期、生徒会長が選出された。成績優秀、品行方正、これが生徒会長の生徒会長たるところだが、この度選ばれた会長はいささか違う。なかなか面白そうだ。早朝の甘露な空気青田道

我孫子市 梶間 智明

苛められ距離に手を貸す立葵

東京都 藤ヶ谷国柱

俯や三千院の濃紫陽花

東京都 中島 徒雁

心地よき素顔の会話風薫る

門真市 兵頭 丘子

バラアーチまこと幸せさうな家

久喜市 利根川輝紀

あぢさゐに手の届かない乳母車

川越市 大野宥之介

鎧坂登つて下りて夕薄暑

東京都 腰山 正久

正木ゆう子 選

紫陽花やり残したことなどない

西宮市 高崎なほみ

【評】なんと気持ちの良い断言だろう。まだまだやりたい事が一杯というのも元気で良いが、この句の断言はまた別の強さである。季語がちよつと良い。向日葵なら一寸即き過ぎ。鍋釜の隣りに咲いていた朝顔

市川市 吉住 威典

【評】家々が今ほど閉鎖的でなく、サッシの窓もなかった時代。台所は朝顔が覗き込みそうな場所だった。土間ならば、外と内の間という感じ。隙間なきところに消えてきらら虫

東京都 望月 清彦

【評】きらら虫とは紙を好む紙魚のこと。それほど小さくはないのに、何処にそんな隙間があるのか、素早く姿を隠して、しぶとく生きていく。夏つばめ船員たちが歯を磨く

栃木県 あらあひとし

わが足に挑む小魚箱眼鏡

志木市 谷村 康志

敷石の目地に砂盛り上げて蟻

大阪府 池田 寿夫

山車高く立つ少年の細き脚

神戸市 浅野 洋子

青嵐わが家の枳は実生なり

八王子市 中野美保子

出し抜けに泣き出す男夏芝居

東海市 斉藤 浩美

薔薇といふ字を書ける子と薔薇の前

秩父市 浅見 三葉

小澤 實 選

箱庭の子規本墨にすべり込む

名古屋市 可知 豊親

【評】箱庭で野球場を再現している。今まさに本墨に滑り込んでいるのは、健康な頃の正岡子規だということだ。子規は、野球というスポーツの日本への紹介者のひとりだった。父の日の父。パエリアをふるまひぬ

神戸市 吉野 勝子

【評】父の日の父でも、別段感謝されるわけでもない。逆に得意料理のパエリアでもてなしているという。父という存在の悲哀を感じる。公園へ逸る小犬や梅雨晴間

川越市 横山由紀子

【評】公園の大きな空間を前にして、小型犬が走り回らなくて、気持ちちはやっているのだ。長雨が続いて、家に籠り通じたのだろうか。あぢさゐの葉に半眼の雨蛙

鹿児島市 鶴屋 洋子

泡あまた放つ藻の花引つ張れば

羽曳野市 鎌田 武

新入りの金魚をつつく金魚かな

松山市 久保 栞

投ぐる餌に滾る鰻や鱈漁

茅ヶ崎市 清水 吞舟

葭原に鳴き葭切の名を証す

越谷市 安居院半樹

髪上げのをみな皆佳し祭笛

下田市 森本 幸平

小児科の待合室や熱帯魚

前橋市 豊嶋啓一朗